

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和2年12月)

### ～営業時間の短縮、外出の自粛などで現状判断は続落～

- 景気ウォッチャー調査・12月調査の近畿地域の結果は、現状判断が34.1と2か月連続で低下。指数は景気横ばいを示す50を2か月連続で下回った。一方、先行き判断は37.5と3か月ぶりに上昇している。
- 足元の景気は、新型コロナウイルスの感染第3波が拡大する中、GoToトラベル、GoToイートの各事業が順次停止となったほか、12月初旬からは一部地域の飲食店に対する営業時間の短縮要請も出された結果、飲食店やホテル・旅館を中心に需要が大きく減少している。
- また、消費者には不要不急の外出の自粛要請が出たことで、都市部の百貨店やコンビニといった小売関連でも客足の減少につながっている。クリスマス商戦や年末商戦については、ネット通販の拡充による押し上げが一部でみられたものの、全体としては衣料品が不調となるなど、悪影響が広がっている。
- 先行きについても、感染第3波による悪影響への懸念は引き続き大きい。百貨店をはじめとする小売関連はもちろん、各種サービス、観光関連といった幅広い業界から、客足の減少を不安視する声が上がっている。海外で発生した変異種の感染拡大も、先行きへの大きな不安材料となっている。
- なお、12月調査の終了後に感染が急拡大し、大阪、京都、兵庫の3府県は、政府に対して緊急事態宣言の発令要請を行った。正式に緊急事態宣言が発令されれば、営業時間の短縮や、外出自粛の動きが一段と進むことから、景気はさらなる悪化が免れない。特に、外食、観光・レジャー関連を中心に、需要の大幅な減少が予想される。

#### 「時短営業、外出自粛の要請」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	な や や 良 く な っ て い る	家電量販店(店員)	・新型コロナウイルスの影響で外出の自粛が話題となっているが、年末ということもあり、来客数は前年並みとなっている。感染を予防すれば外出も問題ないという風潮が、若干進んでいるような気がする。
	変 わ ら な い	スーパー(経理担当)	・新型コロナウイルスの感染第3波に伴う、外出の自粛や営業時間の短縮要請で、内食需要が高まっている。帰省やパーティーなどのイベントは減少したものの、年末商戦は一定の盛り上がりを見せている。
		その他専門店[ドラッグストア](店員)	・GoToキャンペーンの停止や年末の帰省に対する自粛要請もあり、量販店の来客数は増加気味であった。ただし単価はそれほど上がらず、やはりクーポンなどがなければ難しい。単価の安い商品の売行きは良いため、今後はデフレ傾向が進むと予想される。
		タクシー運転手	・寒くなった影響や、外出自粛の要請もあり、レジャーに関する動きは減っているが、通院などの必要な需要については動きがみられる。
	や や 悪 く な っ て い る	百貨店(商品担当)	・新型コロナウイルスの感染第3波による、飲食店の営業時間短縮やGoTo Travelキャンペーンの停止などで、外出自粛の機運が高まり、一部で持ち直しかけた来客数や売上が大きく悪化した。ただし、月後半は迎春に向けた需要や、元々当店はインバウンド利用が少なかったこともあり、少し改善している。全体としては、都心店よりも郊外店が好調で、店頭販売よりもインターネット販売が好調である。また、食品や子供服、書籍・文具などが比較的順調に動いている。
		百貨店(営業推進担当)	・12月前後から事業の休止や店舗の撤退が増加傾向にある。理由の多くは、新型コロナウイルスによる収益の悪化に伴う、事業の整理や再編である。また、過度な人員削減の影響で、営業時間の短縮要請が増加している。新型コロナウイルスの感染第3波によって更なる収益の悪化が懸念されるなか、今後もこのような要請は増加が見込まれる。

家計動向関連	やや悪くなっている	百貨店（特選品担当）	・飲食関連の時短営業に伴い、来店客の帰る時間が以前よりも早くなっている。以前は20時の閉店時間まで客がいたが、今は19時にはほとんどの客が帰る。本来12月は入店客数が多く、長く店舗に滞在し、帰る時間も遅かった。今年は客が入っていると実感できる時間帯が、午後から夕方過ぎまでと、3か月前に比べてかなり短くなっている。
		衣料品専門店（店長）	・12月初旬には大阪でも営業時間の短縮要請が出された。3か月前の景気がやや向上きになった頃に比べると、来客数が減少してきている。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染第3波による予約のキャンセルに加え、時短営業の要請による影響が大きく、非常に苦しい年末となっている。
	悪くなっている	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスによる外国人売上の消失で、売上全体が大きく減少している。さらに、大阪府内での感染者数の増加による営業時間の短縮要請や、外出自粛の呼びかけで来客数が減少し、売上は更に減少している。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・12月は、例年であれば平月の倍の売上が確保できるが、飲食店の時短営業や忘年会の中止などにより、平月以下の売上となっている。食品の卸売会社には、時短営業などに対する国の補助がなく、売上の減少を補う手段がないのが現状である。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染第3波による外出自粛要請が出てから、客の動きに鈍さが目立つようになっている。
		一般レストラン（経営者）	・外出の自粛要請もあり、夜の来客数は激減している。また、昼間の来客数は、前日の新型コロナウイルスの感染者数が影響するケースもあった。他店の様子を見ると、営業時間の短縮要請に応じず普通に営業している店ほど、にぎわっている。
		一般レストラン（経営者）	・12月は忘年会の予約が入らず、新年会の予約もない。飲食店が時短営業となつてからは、関係のない地域でも客が減り、人通りも寂しい状態である。ただし、若年層が中心の店は人が多く、にぎわっている。
		一般レストラン（企画）	・11月から徐々に悪化傾向にあったが、12月に入って営業時間の短縮といった、新型コロナウイルスの感染対策の影響が出ており、更に悪化している。
		都市型ホテル（総務担当）	・大阪府が、Go To Travelキャンペーンの休止対象になった11月14日以降、新規の予約が減少している。また、年末年始も休止となったことで、例年は高稼働の12月31日や1月1日の宿泊予約は、稼働率が20～30%台と大きく落ち込んでいる。また、レストランや宴会についても、大阪府のGo To Eatキャンペーンのプレミアム食事券の使用自粛要請や、5名以上の宴会、会食の自粛要請により、12月のレストラン売上は前年比で約30%に落ち込んでいる。宴会売上に至っては、前年比で約15%程度に落ち込んでいる。
都市型ホテル（販売促進担当）	・客室部門、料飲部門共に下向きである。客室部門は前月と同じような動きを見込んでいたが、Go To Travelキャンペーンの停止の影響が大きく、稼働率は20%と前月の47%を下回った。また、料飲部門では、レストランは営業時間の短縮要請や、Go To Eatキャンペーンの自粛で予約のキャンセルが多かった。予約が減少したため、10日間のレストランの営業休止を行っている。		
	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染拡大で外出の自粛が多くなり、客の乗車機会が激減している。昼勤、夜勤共に前年比で50%以上の減収となり、深刻な状況である。	
	タクシー運転手	・外出自粛の影響で、タクシーの利用が減っている。特に飲酒での帰宅時の利用など、利用額の多い層が動いていない。	
企業関連	変わらない	経営コンサルタント	・外出の自粛や営業時間の短縮が要請されるなど、良い要素は全くない。強制的に実施を迫られ、2～3か月前よりも悪い状態が続いているため、これ以上は悪くなりようがない。

### 「クリスマス・年末商戦」関連のコメント（現状判断）

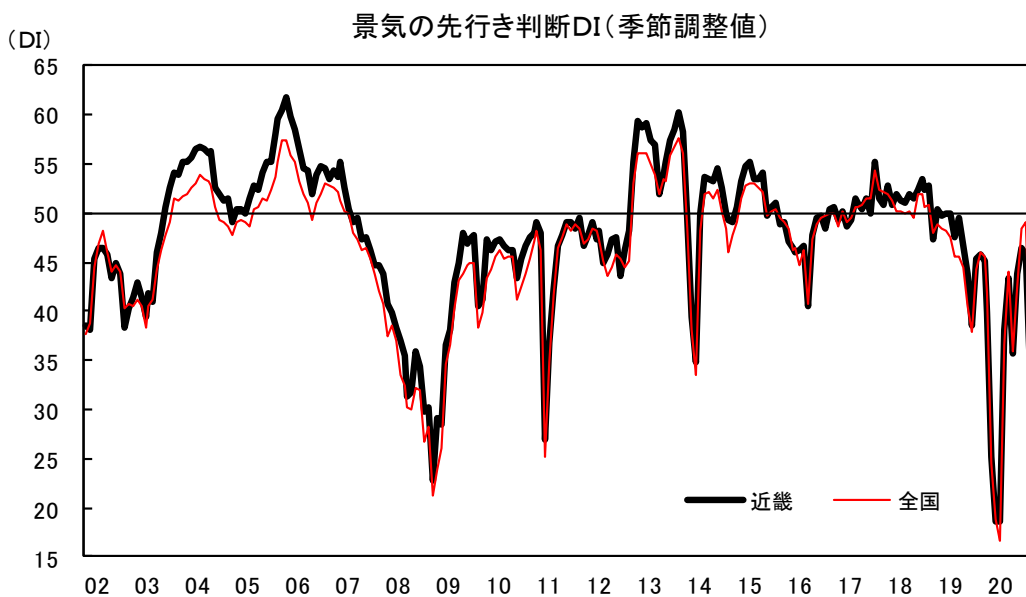
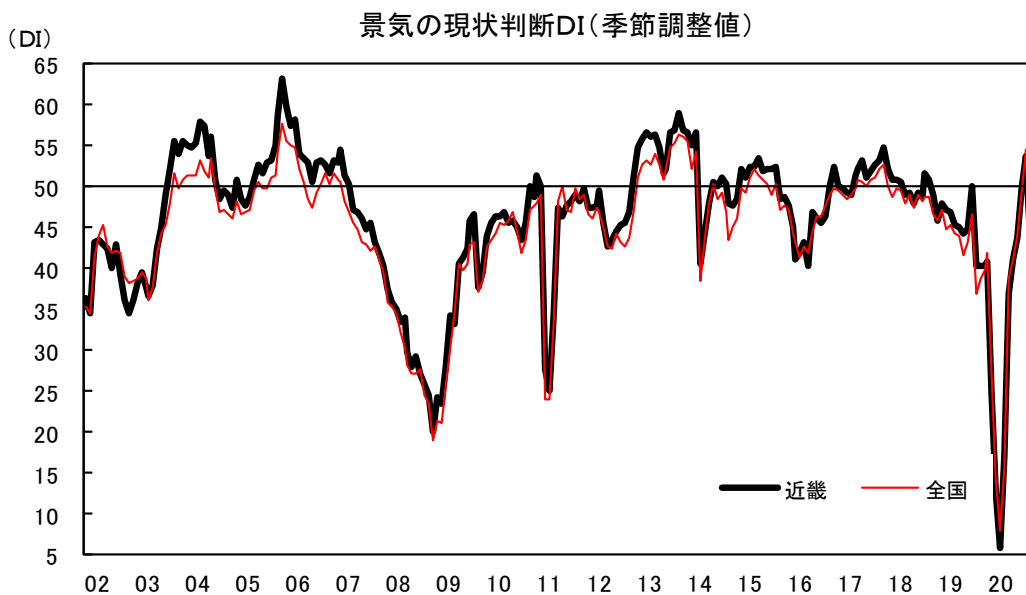
家計動向関連	良くなっている	百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの影響で、年末年始を家庭で楽しむ傾向が目立ち、クリスマスケーキやおせち料理の受注が拡大している。特に、おせち料理については20万円台の商品が真っ先に売り切れた。旅行や行楽への消費が家庭内での消費に振り替わった様子で、株高を背景に特選ブランドや宝飾品の動きも好調である。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者数が急増し始めた12月中旬から、買上点数、単価共に向上き始めた。年々減少していたクリスマスケーキの予約が大幅に増え、おせち料理も早々に売切れとなっている。帰省や遠出をせずに、家族で過ごすクリスマス、年末年始の影響で、少量で少し良い物がよく売れた。ただし、帰省が多い地区では、歳末商戦は若干苦戦している。
	変わらない	百貨店（服飾品担当）	・新型コロナウイルスの感染者数の増加で、12月初旬から入店客数が大幅に減少し、この時期の主力商材である服飾雑貨関連の売上は前年比で80%台となった。ボーナス商戦も縮小し、混雑の回避でギフト市場も分散し、苦戦を強いられている。そのなかで、新たに開始したクリスマスケーキの宅配サービスや、デジタル化したサービスは客の反応も良く、今後の百貨店の在り方につながる兆しが感じられる。また、インバウンドがない状況で、コスメ関連も徐々に回復傾向にあり、今年は男性客の増加によるギフト商戦の拡大がみられた。また、郊外店舗は足元で客の買い回りがみられ、ギフト商戦も含めてやや好調に推移するなど、明るい材料となっている。
		百貨店（販売推進担当）	・府の警戒信号が赤となつて以降、飲食テナントを中心に集客の厳しい状況が続いているが、クリスマス商戦や年末商戦については、さほど大きくは落ち込んでいない。

家計動向関連	変わらない	スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染第3波に伴う、外出の自粛や営業時間の短縮要請で、内食需要が高まっている。帰省やパーティーなどのイベントは減少したものの、年末商戦は一定の盛り上がりを見せている。
		コンビニ（店員）	・新型コロナウイルスの感染増加の影響もあり、クリスマスケーキがよく売れたが、全体的に売上の伸び率は変わらない。
	やや悪くなっている	百貨店（販促担当）	・新型コロナウイルスの感染第3波が大きくなり、来客数が減少したほか、消費マインドの減退も目立っている。巣籠り消費向けのクリスマス関連の食品は好調であるが、ファッション関連は全体的に苦戦している。高額品に関しても、株価が高い割には鈍い動きである。
		百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルスの感染拡大が11月後半から顕著になり、企業業績の悪化による雇用情勢の変化などで、客の買物が価格中心の慎重な選択消費となっている。クリスマス商戦も一部の特選品を除き、国内の現金客が前年比20%減と苦戦している。唯一、おせち料理だけが売上倍増となっている。
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・年末商戦も、新型コロナウイルスの影響や商店街のイベントの減少で、来客数は減少傾向にある。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・クリスマスケーキやおせち料理の予約は活発であるが、全体的には新型コロナウイルスの感染第3波が顕在化した11月下旬から、状況は悪化している。ただし、都心の店舗に比べて郊外店は堅調であり、近場や県内での消費にシフトしている。

### 「時短営業、外出自粛の要請」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	変わらない	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響は長引きそうで、観光業や飲食、アパレル関連のダメージは大きい。一方、スーパーの来客数は前年比10%減で推移しているものの、以前ほどの自粛ムードはなく、それ以上のダウンにはなっていない。
		高級レストラン（スタッフ）	・1月も時短営業が続くことになり、先行きに明るさはまだみられない。
		タクシー運転手	・例年であれば、多くの人が動く時期であるが、今年は政府からの外出自粛要請もあり、不要不急の外出は減っている。新型コロナウイルスの感染が収束しない限り、今の状況が続く。
	やや悪くなる	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大は、2～3か月の周期で減少に転じるとは考えられない。今後は、外出の自粛要請や、営業時間の短縮要請が強く出されると予想され、売上の大部分を店頭販売で計上している百貨店では、来客数の減少による景況の悪化が進むと考えている。
		百貨店（営業推進担当）	・新型コロナウイルスの感染第3波の影響は大きく、緊急事態宣言が発令される事態となれば、致命傷になりかねない。そこまではないとしても、外出の自粛を呼びかける期間が長ければ長いほど、企業の生産は減少し、個人消費は更なる減少につながると予想される。
		スーパー（店長）	・外出の自粛は今後も続くと予想され、衣料品を中心に売上の減少が見込まれる。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染防止について、抜本的な対策が打てない中、外出の自粛要請の長期化により、経済への悪影響がボディーブローのように効いてくるおそれがある。
	悪くなる	都市型ホテル（販売促進担当）	・客室部門は、現時点での1～3月の先行予約が10～11月時点の約30%に減少しており、景気は下向いている。Go To Travelキャンペーンの全国停止が解除されず、延長されることになれば、先の予約もキャンセルが増えると予想される。宴会、会議の予約や問合せは全く入らず、客による自粛の動きが感じられる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響で、外出の自粛といった不況感が漂うなか、タクシーの利用率は少なく、街は空車のタクシーであふれている。例えば、医療従事者の交通手段として政府がタクシーを斡旋し、初乗りチケットを渡すなどして、状況の改善をお願いしたい。
	企業関連	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）
建設業（経営者）			・このまま新型コロナウイルスによる各種の自粛が続けば、飲食関係の企業や従業員からの受注減が懸念される。
その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）			・飽くまでも12月との比較であるが、年末の感染者数の急増で、国民の自粛モードはより一層強まることになる。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

	18年19年								20年																	
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
現状判断	近畿	49.1	45.8	48.0	47.1	46.9	45.3	45.1	44.2	44.8	50.0	40.4	40.4	40.2	40.9	25.1	12.7	5.8	17.1	37.0	41.1	43.7	49.7	53.7	43.2	34.1
	(全国)	46.6	45.9	47.1	44.9	45.3	44.2	44.1	41.6	43.1	46.6	36.9	38.8	39.7	41.9	27.4	14.2	7.9	15.5	38.8	41.1	43.9	49.3	54.5	45.6	35.5
先行き判断	近畿	47.4	50.4	49.7	49.9	49.9	47.5	49.4	46.7	43.9	38.6	45.4	45.8	45.1	39.9	25.1	18.6	18.6	38.2	43.4	35.6	43.7	46.5	45.8	33.4	37.5
	(全国)	47.9	48.9	48.4	48.1	47.6	45.5	45.6	44.4	40.5	37.8	44.3	45.9	45.5	41.8	24.6	18.8	16.6	36.5	44.0	36.0	42.4	48.3	49.1	36.5	37.1

※季節調整値